

備後船渠株式会社 広島県御調郡三庄村（原書 P81～84）

設立 明治^{さんじゅう} 卅 四年六月

目的 造船修繕鉄工業

資本金 拾五萬円也 払込済

重役の氏名

取締役社長 小杉辰三

専務取締役 松尾忠二郎

取締役 田宮嘉右衛門

取締役兼技師長 泉 京次郎

取締役兼船体部技師 三上英果

監査役 依岡省輔

監査役 木村 基

相談役 西宗元次郎

沿革及現況

同社の前身は明治三十三年一月頃、三庄村有志者が資本金参千円の合資組織にて設立せられたるものにして翌年六月、更に拾五萬円の株式組織に変更せり。同三十六年八月、西宗元次郎氏入って社長となり拮据経営中、日露戦役当時宇品港出入御用船修繕を引受け、業況頓に活気を呈し来り。

同四十年、船渠を増設する等漸次発展を告げ、社運隆盛に赴むきつつありしが本年六月、社長兼大株主たる西宗元次郎氏持株の大部分を鈴木商店に譲り受け、総株数の七割以上に達し、会社の債務三拾萬円を引受け、前記重役の就任と共に従来の大坂出張所を神戸製鋼所内に移し、全然鈴木系統により経営せらるるに至れり。

而して、同社の現在に於ける生産能力は修繕船約二十萬噸、一千噸乃至二千噸型汽船四隻の新造を為すに過ぎざるも、近く資本金を五拾萬円に増額し益々事業の拡張を図り、海岸埋立、船台の増設、工場の建築を為し、面目を一新するに至るべし。

尚、本年度上半期に於ける総益金約六拾萬円に達し、全財産百貳拾萬円を計上せるが、目下建造中に係るものは鉄船一千噸型二隻の外小型の分尚四隻あり、何れも明年五月迄に竣功を告る予定なるが、同社は主として大型鉄船の建造及修繕を目的とし、将来斯界に活躍すべき抱負の下に目下事務員以下職工約千四百名内外を使役し、大に多忙を極めつつあり。

因みに、同社の取締役兼技師長たる泉京次郎氏は東京商船学校出身にして、日本郵船会社及通信省海事課等に勤務し多年斯界の造船最も深く、又船体部主任技師三上英果氏は三十九年東京帝大工科出身の工学士にして造船に関する知識と経験に富み、同社の為め努力しつつあるが、元來同社は広島県下因島の東南端に在りて尾道市を距ること南十海里、神戸港より約百海里にして東西は小丘を以て圍繞せられ、南は瀬戸内海の航路に面し、潮流緩やかにして四時波浪を見ること稀にして頗る地の利を占めて居れりと云ふ。